様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ９ 月　 ３ 日現在

機関番号：８４５０４
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｈ０３７４７

研究課題名（和文）子どもの心的外傷関連障害治療プログラムの多機関における効果検証と応用に関する研究

研究課題名（英文）Multi-site, Randomized Controlled Trial for Children with Trauma-related Symptoms and Treatment Applications

研究代表者
亀岡　智美（Kameoka, Satomi）

公益財団法人ひょうご震災記念２１世紀研究機構・こころのケアセンター・副センター長

研究者番号：９０５１２２９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,410,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、欧米で子どものPTSDへの第一選択治療として推奨されているTF-CBT（Trauma-Focused Cognitive Behavioral Therapy）の我が国における効果検証に取り組んだ。兵庫県こころのケアセンターと被害者支援都民センターにおいて実施した無作為化比較試験が終了し、先行研究と同様に、わが国においてもTF-CBTの有効性が検証された。結果については、論文にまとめ、報告する予定である。その他の研究分担機関においても、TF-CBTの終了例が蓄積された。TF-CBT実施前後のMRI画像分析については、福井大学子どものこころの発達研究センターで7例を分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまでわが国では、子どものPTSDやトラウマ関連障害の治療について、適切に効果が検証された治療法はほとんどなかった。本研究において、TF-CBTの我が国における有効性が検証されたことは、PTSDや関連障害に苦しむ子どもや青年とその家族のこころの回復に大きく貢献するものと思われる。

研究成果の概要（英文）：TF-CBT (Trauma-Focused Cognitive Behavioral Therapy) is recommended as a first-line treatment for children suffering PTSD. In the current study, a randomized controlled trial (UMIN000010699) was conducted at multi-sites in Japan. In the result, the effectiveness of TF-CBT was shown in Japan as well as the previous research. The result will be reported in a research paper.

研究分野：精神医学

キーワード：TF-CBT　PTSD　RCT　trauma　child　adolescent　CBT　MRI

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

子ども期のトラウマティック・イベントへの曝露体験（心的外傷体験）は、従来考えられていた以上に頻回なものであることがいくつかの疫学調査から判明している(Copeland,2007)。わが国においても、自然災害や犯罪被害・事故・子ども虐待などによって心的外傷を体験する子ども達の数は看過できないものになっている。これらの心的外傷体験後に何らかの症状を示す子どもは、その後の人生においてさらに心的外傷を体験するリスクが高まり、曝露回数が増えるに従って、心的外傷後ストレス障害（posttraumatic stress disorder、PTSD）のみならず、様々な精神疾患の発症率が高くなることも判明している。それだけに、子どもの心的外傷関連症例への有効な治療法を普及させることは、わが国においても喫緊の課題となっていた。

２．研究の目的

本研究は、子どもの心的外傷関連障害への心理療法として、国際的に最もその有効性が検証されているTF-CBT（trauma-focused cognitive behavioral therapy, トラウマフォーカスト認知行動療法）の日本における有効性の検証を主な目的とした。また、わが国では数少ない心的外傷専門治療機関や犯罪被害者支援施設だけではなく、大規模自然災害被災地の児童精神科医療施設・総合病院の児童青年精神科・児童相談所など、子どもの心的外傷関連症例への対応が求められるさまざまな臨床的枠組みにおいて、TF-CBTの応用と効果的な実践方法を研究し、さらには、TF-CBT実施前後の子どもの脳画像を比較分析し､心的外傷を有する子どもの神経学的リカバリーメカニズムについて研究することを目的とした。

３．研究の方法

（１）　兵庫県こころのケアセンターと被害者支援都民センターにおいて、平成25 年度からすでに取り組んでいる無作為化比較試験を同様のプロトコールで継続実施した。

（２）　自然災害被災地の医療機関、総合病院や小児総合病院、児童相談所などの機関において、TF-CBT の実施前後の症状評価を行うことにより、TF-CBT の実施可能性を検討した。

（３）　福井大学子どものこころの発達研究センターでは、共通のプロトコールに基づいて撮影された、TF-CBT 実施前後のMRI 画像を比較解析した。

４．研究成果

TF-CBT 無作為化比較試験は終了し、先行研究と同様に、わが国においても TF-CBT の有効性が検証された。本研究は、アジア地域における初めての TF-CBT 効果検証であり、欧米とは異なる文化圏においても TF-CBT の有効性が確認された貴重な研究である。今後は、わが国の PTSD 及び関連疾患で苦しむ子どもや青年とその家族のこころの回復に大きく貢献するものと思われる。また、国内のさまざまな医療機関においても、十分実施可能であることが示され、今後は広く TF-CBT の技術を普及し、人材育成の体制を整えることが必要であると考えられた。TF-CBT 実施前後の MRI 画像解析に関しては、症例数が少なかったため、今後引き続き検討が必要であると思われた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　４０件）

１．亀岡智美，瀧野揚三，野坂祐子，岩切昌弘，中村有吾，加藤寛：トラウマインフォームドケア～その歴史的展望～．精神神経学雑誌，120(3)；173－185，2018．査読あり．

２．Takada S, Kameoka S, Okuyama M, Fujiwara T, Yagi J, Iwadare Y, Honma H, Mashiko H, Nagao K, Fujibayashi T, Asano Y, Yamamoto S, Tomoko O, Kato H：Feasibility and psychometric properties of the UCLA PTSD reaction index for DSM-5 in Japanese youth: A multi-site study. Asian Journal of Psychiatry, 33；93－98, 2018. 査読あり.

３．八木淳子：災害と子ども－被災地の児童精神科医として見えてきたこと－．LD 研究，28；14－23，2018．査読なし．

４．八木淳子:効果が実証された子どものトラウマ治療　医療機関におけるTF-CBTの展開　岩手医科大学附属病院・いわてこどもセンターにおける TF-CBT の実践．児童青年精神医学とその近接領域，59；369－376．2018．査読なし．
５．亀岡智美：災害被害とレジリエンス．臨床心理学，17(5)；659－663，2017．査読なし。
６．亀岡智美：トラウマ治療とCBT．臨床心理学，18(1)；57－59，2017．査読なし．
７．亀岡智美:性的虐待を受けた子どもへのトラウマ治療.児童青年精神医学とその近接領域，58(5)；680－684，2017．査読なし．
８．八木淳子：子どものトラウマ関連障害の治療－東日本大震災後中長期のいわてこどもケアセンターにおける実践から－.児童青年精神医学とその近接領域,58(5);700－708,2017.査読なし．
９．亀岡智美：被虐待児へのトラウマケア．児童青年精神医学とその近接領域，57(5)；738－747，2016．査読なし．
１０．　亀岡智美：わが国での TF-CBT 実施可能性について．児童青年精神医学とその近接領域，57(4)；536－544，2016．査読なし．
１１．　亀岡智美：子どものPTSDへのトラウマフォーカスト認知行動療法．精神科，29(4)；326－331，2016．査読なし．
１２．　亀岡智美：PTSDと子ども虐待．小児科臨床，69(12)；2735－2741，2016．査読なし．
１３．　亀岡智美：トラウマとストレスマネジメント．小児内科，48；727－732，2016．査読なし．
１４．　浅野恭子，亀岡智美，田中英三郎：児童相談所における被虐待児へのトラウマインフォームドケア．児童青年精神医学とその近接領域，57(5)；748－757．2016．査読なし．
１５．　Tanaka E, Tsutsumi A, Kawakami N, Kameoka S, Kato H, You Y.: Long-term psychological consequences among adolescent survivors of the Wenchuan earthquake in China: A cross-sectional survey six years after disaster. J Affect Disord, 1(204);255-261.2016.査読あり．
１６．　Masahide U, Iwadare Y, Watanabe K, et al.:Long-Term Fluctuations in Traumatic Symotins if Hugh School Girls Who Survived from the 2011 Japan Tsunami: Series of Questionnaire-Based Cross-Sectional Surveys. Child Psychiatry & Human Development, 47；1002－1008，2016．査読あり．
１７．　齋藤梓：被害者支援現場におけるトラウマフォーカスト認知行動療法の実践とその効果について．児童青年精神医学とその近接領域，57(4)；552－557，2016．査読なし．
１８．　島田浩二，滝口慎一郎，藤澤隆史，友田明美：子ども虐待の脳科学研究．小児内科，48(2)；149－153，2016．査読なし．
１９．　友田明美：乳幼児期の被虐待体験とその後の精神発達への影響－反応性アタッチメント障害と発達性トラウマ障害．精神科治療学，31(7)；865－871，2016．査読なし．
２０．　友田明美：小児の虐待―脳科学的な解析から－．小児科臨床，69(10)；1613－1622，2016．査読なし．
２１．　友田明美：被虐待者の脳科学研究.児童青年精神医学とその近接領域,57(5);31-37,2016．査読なし．
２２．　友田明美：児童虐待に起因する愛着形成障害の脳科学的知見．精神神経学雑誌，117(11)；928-935，2016.査読なし．
２３．　八木淳子：東日本大震災後の子どものケアにおける TF-CBT の実践．児童青年精神医学とその近接領域，57(4)；544-522，2016．査読なし．

〔学会発表〕(計　４２件)
１．亀岡智美：子どものトラウマインフォームドケア～TF-CBT の原理を生かして～．第 17 回日本トラウマティックストレス学会，2018.
２．亀岡智美：逆境的環境で育った子どもへの治療的関わり～トラウマインフォームドケアの視点から～．第19回日本児童青年精神医学会，2018.
３．三宅和佳子，福江めぐみ，堀上瑞恵，山川咲子，山本悦代，平山哲，小杉恵，亀岡智美：小児総合病院におけるトラウマケア．第17回日本トラウマティックストレス学会，2018.
４．福田理尋，佐藤康治郎，亀岡智美：肉親の自死によりトラウマ関連症状を呈した女児に対してトラウマフォーカスト認知行動療法を実施した 1 例．第 18 回認知療法・認知行動療法学会，2018.
５．友田明美：ACE(Adverse Childhood Experiences)を受けた子どもに精神科医はどのようにかかわるか？診断・評価・支援．第114回日本精神神経学会学術総会，2018.
６．友田明美：子ども虐待と脳科学　アタッチメント(愛着)の視点から．第 40 回国際学校心理学会・第20回日本学校心理学会，2018.
７．八木淳子：育てと育ちの精神医学～困難な育児・逆境における育ちをどう支えるか～「震災後に生まれた子どもの育ちと母親のメンタルヘルス～被災地のコホート調査の結果から～」．第114回日本精神神経学会，2018.
８．八木淳子：逆境体験が子どもの発達に及ぼす影響と回復への介入．第 17 回日本トラウマティックストレス学会，2018.

９．岩垂喜貴：思春期臨床を学ぶ逆境体験を超えて思春期を生き延びた女子ケース　母―娘関係．第 117 回日本精神神経学会，2018.
１０．　岩垂喜貴：東日本大震災被災地(石巻市)と非被災地(市川市)の児童生徒のトラウマ反応・睡眠衛生に関する調査．第 43 回睡眠学会学術総会，2018.
１１．　大塚美菜子，加藤寛，亀岡智美：発達障害児者におけるトラウマ臨床についての実態に関する調査．第 16 回日本トラウマティックストレス学会，2017.
１２．　齋藤梓：犯罪被害に遭遇した子どもとその保護者の刑事手続きを支える取り組み．第 16 回日本トラウマティックストレス学会，2017.
１３．　亀岡智美：性的虐待を受けた子どもへのトラウマ治療．第 57 回日本児童青年精神医学会，2016.
１４．　亀岡智美：治療における Trauma-Informed Care の課題．第 22 回日本子ども虐待防止学会．2016.
１５．　Takada S, Kameoka S, Okuyama M, et al.：Screening for PTSD among Japanese Youth: Psychometric Properties of the UCLA PTSD Reaction Index for DSM-5. American Academy of Child and Adolescents Psychiatry’s 63rd Annual Meeting, 2016.
１６．　高田紗英子，亀岡智美，奥山眞紀子，藤原武雄，岩垂喜貴他：日本語版 UCLA PTSD-RI-5 の信頼性妥当性に関する研究．第 15 回日本トラウマティックストレス学会，2016.
１７．　齋藤梓：性犯罪被害を受けた子どもおよび保護者に対する精神的支援～心理教育を中心に．第 22 回日本子ども虐待防止学会，2016.
１８．　八木淳子:Treating Traumatized Children: Over the mental health of children after the Great East Japan Earthquake Disaster.　The 7th Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention, 2016.

〔図書〕（計　１０件）
１．亀岡智美：発達障害とトラウマ．漆葉成彦他編著：発達障害のバリアを超えて．221(192－206)，クリエイツかもがわ，2018.
２．八木淳子：被災地の子どものこころのケア．190，中央法規，2018.
３．亀岡智美：トラウマ後の情動調節への治療的アプローチ．奥山眞紀子他編：情動とトラウマ．230（107－117），朝倉書店，2017.
４．亀岡智美：PTSD（心的外傷後ストレス障害）．青木豊・松本英雄編：乳幼児精神保健の基礎と実践．278（194－203），岩崎学術出版，2017.
５．亀岡智美：トラウマの治療－認知行動療法－．藤森和美他編：暮らしの中の心理臨床　トラウマ．181（146－150），福村出版，2016.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕
ホームページ等　http://www.j-hits.org/child/index.html

６．研究組織
(1)研究分担者
研究分担者氏名：齋藤　梓

ローマ字氏名：Azusa Saito

所属研究機関名: 目白大学

部局名：人間学部

職名：専任講師
研究者番号（8 桁）：60612108

(2)研究分担者
研究分担者氏名：八木　淳子

ローマ字氏名：Junko Yagi

所属研究機関名：岩手医科大学

部局名：医学部

職名：講師
研究者番号（8 桁）：80636035

(3)研究分担者
研究分担者氏名：岩垂　喜貴
ローマ字氏名：Yoshitaka Iwadare
所属研究機関名：国立研究開発法人国立国際医療研究センター
部局名：その他部局等
職名：その他
研究者番号（8桁）：90559668

(4)研究分担者
研究分担者氏名：友田　明美
ローマ字氏名：Akemi Tomoda
所属研究機関名：福井大学
部局名：子どものこころの発達研究センター
職名：教授
研究者番号（8桁）：80244135

(5)研究分担者
研究分担者氏名：酒井　佐枝子
ローマ字氏名：Saeko Sakai
所属研究機関名：大阪大学
部局名：連合小児発達学研究科
職名：准教授
研究者番号（8桁）：20456924

(6)研究分担者
研究分担者氏名：井野　敬子
ローマ字氏名：Keiko Ino
所属研究機関名：名古屋市立大学
部局名：大学院医学研究科
職名：助教
研究者番号（8桁）：10727118

(6)研究協力者
公益財団法人被害者支援都民センター
　飛鳥井　望　Nozomu Asukai
　新井　陽子　Yoko Arai
　成澤　知子　Tomoko Narisawa

兵庫県こころのケアセンター
　田中　英三郎　Eizaburo Tanaka
　山本　沙弥加　Sayaka Yamamoto
　高田　紗英子　Saeko Takada

大阪府子ども家庭センター
　浅野　恭子　Yasuko Asano
　島　ゆみ　Yumi Shima
　中島　淳　Atsushi Nakashima
　竹腰　友子　Tomoko Takekoshi
　西村　悠哉　Yuya Nishimura

大阪母子医療センター

三宅　和佳子　Wakako Miyake

大阪大学大学院人間科学研究科
野坂　祐子　　Sachiko Nosaka

総合母子保健センター愛育クリニック
小平　雅基　　Masaki Kodaira

京都大学大学院医学研究科社会健康医学
自治医科大学地域医療学
市川　佳世子　Kayoko Ichikawa

大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター
岩切　昌宏　　Masahiro Iwakiri
瀧野　揚三　　Yozo Takino

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。